

公益社団法人 日本天文学会

2019年度事業報告書

I. 出版物の刊行（定款第2章第5条2項に該当の事業）

1. 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan) : 第71巻2号-6号、増刊特集号71巻SP1号、第72巻1号の計7回刊行。総論文数149編（うちLetter 7、あかり特集 7、野辺山レガシー特集 21）、総頁数2,409頁、発行部数100部、偶数月発行。
2. 天文月報 : 第112巻5号-12号、第113巻1号-4号を刊行。総頁数905頁、総目次10頁、発行部数3,550部、毎月20日発行。
3. 年会予稿集 : 2019年秋季年会発行総頁数327頁、400部印刷。2020年春季年会発行総頁数307頁、400部印刷。
4. ジュニアセッション : 春季年会予稿集76頁、350部印刷。
5. 「シリーズ現代の天文学」3、17巻第2版を刊行した。

II. 年会の開催（定款第2章第5条1項に該当の事業）

1. 2019年秋季年会

2019年9月11日(水)から13日(金)の3日間、熊本大学の黒髪キャンパス(熊本県熊本市)にて口頭講演10会場、ポスター講演4会場を使って開催された。講演件数は口頭講演が503件、ポスター講演が196件で、合計699件の講演があった。年会参加者は一般533名、学生328名の計861名であった。本年会では、通常講演のほか、特別セッション1件(天文教育フォーラム)、企画セッション3件も開催された。展示コーナーは2件の賛助会員による展示があった。また、保育室を開設し、9家族9名の利用があった。年会に先立ち9月10日(火)に熊本県庁県政記者室にて記者発表(講演2件)を行なった。懇親会は9月12日(木)に行い、出席者は来賓3名を含む一般192名、学生92名の合計284名であった。年会開催後、9月14日(土)に熊本大学工学部百周年記念館にて公開講演会を開催し、110名程度が来場した。

2. 2020年春季年会

2020年3月16日(月)から19日(木)の4日間、筑波大学筑波キャンパス(茨城県つくば市)にて開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し、開催を中止した。通常セッションと企画セッション(4件)については、講演ファイル、ポスターファイルをウェブに掲載することを以って発表成立とした。当初の申し込み625件に対して、発表が成立した講演数は573件であった。特別セッションの天文教育フォーラムは中止とした。特別セッション1件、林忠四郎賞・研究奨励賞受賞記念講演については次回以降の年会に延期することとした。ジュニアセッション、展示コーナー、懇親会、公開講演会は中止とし、保育室は設置しなかった。記者発表は中止としたが、中止になった記者会見の講演内容について各機関から今後プレスリリースが行われる場合は学会としても協力することとした。

III. 代議員総会・理事会・会員全体集会及び監査(定款第6-8章第36-57条に該当の事業)

1. 代議員総会

日時 : 2019年6月8日(土) 13:00~16:00

場所 : 東京八重洲ホール 2F 201 会議室(東京都中央区日本橋3-4-13)

議長 : 柴田一成(議事録は学会ホームページに掲載)

日 時：2019年9月12日（木） 11:30～12:30
場 所：熊本大学黒髪キャンパス 工学部 2号館 2F（熊本市中央区黒髪 2-39-1）
議 長：梅村 雅之（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2020年1月13日（月） 13:00～17:00
場 所：東京八重洲ホール 2F 201 会議室（東京都中央区日本橋 3-4-13）
議 長：梅村 雅之（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2020年3月17日（火） 13:00～15:00
場 所：筑波大学筑波キャンパス 計算科学研究センター会議室 C（茨城県つくば市天王台）
議 長：梅村 雅之（議事録は学会ホームページに掲載）

2. 理事会

日 時：2019年5月18日（土） 13:00～16:20
場 所：東京八重洲ホール 2F 201 会議室（東京都中央区日本橋 3-4-13）
議 長：柴田 一成（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2019年6月8日（土） 16:30～18:10
場 所：東京八重洲ホール 2F 201 会議室（東京都中央区日本橋 3-4-13）
議 長：梅村 雅之（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2019年9月11日（水） 17:30～19:00
場 所：熊本大学黒髪キャンパス 工学部 1号館 共用会議室 B（熊本市中央区黒髪 2-39-1）
議 長：梅村 雅之（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2019年12月27日（金） 13:00～15:00
場 所：国立天文台 大会議室（東京都三鷹市大沢 2-21-1）
議 長：梅村 雅之（議事録は学会ホームページに掲載）

議決日：2020年3月6日（金）
方 法：メールによる電磁的決議
議 長：梅村 雅之（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2020年3月16日（月） 14:00～16:00
場 所：筑波大学筑波キャンパス 計算科学研究センター会議室 C（茨城県つくば市天王台）
議 長：梅村 雅之（議事録は学会ホームページに掲載）

3. 会員全体集会

日 時：2019年9月12日（木） 16:15～17:15
場 所：熊本大学黒髪キャンパス 工学部 2号館 2F 223（熊本市中央区黒髪 2-39-1）
司 会：鈴木 建

4. 公益社団法人 2018 年度監査

日 時：2019年5月8日（水） 13:30～15:30
場 所：国立天文台三鷹キャンパス 第3 会議室（東京都三鷹市大沢 2-21-1）
出席者：田中培生、立松健一、早野裕、柴田克典、伊王野大介、佐藤良信事務長、亀井久治公認会計士（オブザーバー）

IV. 委員会など(「日本天文学会委員会等に関する細則」に準拠)

本年度は以下の22の委員会と1の顧問において構成メンバー(任期2年の1年目)により各種活動が行なわれた。

◇ 選挙管理委員会

選挙管理委員会第6期代議員(任期:2020~2023年度)の選挙を定款及び代議員選挙施行細則に則り実施した。新たに電子投票システムの導入を行った。2019年11月8日~12月9日を投票期間とし、2019年12月10日に開票作業を行った。代議員選挙施行細則第10条により、定数22名のうち21名の当選者を得票順に決定し、22番目は同票が2名だったため、選挙管理委員会の抽選により決定した。また次点2名を補欠として決定した。以上の結果を天文月報2020年2月号に報告した。

◇ 推薦委員会

第6期代議員(任期:2020~2023年度)の選挙について、代議員選挙施行細則第7条に則り、候補者の推薦を行った。具体的には、会員から広く候補者の推薦を募るため、2019年9月20日~10月4日に候補者の推薦を受け付けた。受け付け締め切り後、本委員会で代議員候補として被推薦者の選出を行い、その結果を2019年10月15日に選挙管理委員会へ報告した。

◇ 欧文研究報告編集委員会

2019年度は、177編の論文が投稿され編集委員が分担して査読手続を行った。通常号を6号、増刊特集号を1号、合計7号発行し、149編・2,409頁を掲載した。特集企画として、通常号には赤外線天文衛星あかり特集、増刊号には野辺山レガシー観測特集を掲載した。編集委員会議を2019年12月9日、東京八重洲ホールにて開催し、新分野への対応や負担軽減のための編集委員体制の検討、査読手続に関する問題の検討と情報共有を行った。また、OUP社ともPASJの刊行状況や今後の展望などについて意見交換を行った。

◇ 欧文研究報告編集顧問

編集顧問会議を2019年12月9日、東京八重洲ホールにて開催し、1年間の論文出版状況やインパクトファクターの推移などを確認した後、紙版の扱い、掲載料の軽減、電子版の新機能、招待レビュー論文執筆者の推薦、論文賞の認知度向上の為の方策などについて検討を行った。

◇ 天文月報編集委員会

月に一度、zoom会議システムを用いて編集会議を開催し、天文月報の編集作業を行った。6月には新規の委員を対象に三鷹に集まりガイダンスを行った。20年以上大きな更新のなかった天文月報の執筆マニュアルを大幅改定し、投稿用のテンプレートにoverleaf版を加えbibtexにも対応できるようにするなど投稿方法の改善を図った。編集委員の負担低減のために、校正作業の外注を始めた。内容面では5つの特集(Astro-H(ひとみ)、平山族100周、MAXI10周年、すばる望遠鏡20周年、星震学)を組んだほか、昨年に引き続き「安全保障と天文学」シリーズを不定期連載し、声明までの経緯を報告した。

◇ 年会実行委員会

秋季年会(2019年9月11日~13日・熊本大学)を開催した。中止となった春季年会(2020年3月16日~19日・筑波大)の準備と講演ファイルのウェブへの掲載を行なった。両年会的準備にあたっては、2019年7月5日および2020年1月10日に、国立天文台にて年会実行委員会およびプログラム編成会議を開催した。

◇ 天文教育委員会

年会開催時に天文教育フォーラム（日本天文教育普及研究会と共催）を開催した。講師紹介プログラムは 本年度 9 件依頼があり、7 件で紹介、1 件を本プログラム対象外として断り、1 件は紹介の作業中。監修者紹介プログラムを新規に立ち上げるべく、検討を行った。天文教育に関する各種協力要請に積極的に対応した。

◇ ネットワーク委員会

日本天文学会ウェブサイト制作事業を継続して実施した。本年度は、各種委員会と連携した現ウェブサイトの見直しと整理、新ウェブサイト仕様書の改訂、新ウェブサイトのツリー構造（サイトマップ）の改訂、企画競争による業者選定と契約、新ウェブサイトの設計を実施した。また、通常の業務として学会が運用するウェブサーバやメーリングリスト等の維持管理を行った。

◇ 林忠四郎賞選考委員会

天文月報 2019 年 9 月号並びに tennet で、林忠四郎賞受賞候補者の推薦と欧文研究報告論文賞候補論文の推薦を 11 月 8 日締切で会員に依頼した。11 月 30 日に選考委員会を開催し、林忠四郎賞候補 1 件、欧文研究報告論文賞候補論文 2 篇を選出し、2020 年 1 月 13 日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 研究奨励賞選考委員会

天文月報 2019 年 9 月号並びに tennet で第 31 回研究奨励賞候補者の推薦を会員に依頼した。2019 年 12 月 15 日に選考委員会を国立天文台で開催し、候補者 3 名を選出し、2020 年 1 月 13 日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 早川幸男基金選考委員会

若手海外学術研究援助の募集・選考を、第 105 回から 108 回までの 4 回実施した。応募 64 件（前年 47 件）から 25 件（うち 1 名辞退、前年 22 件）を選び、採択率は 39%であった。採択額は 6,401,151 円（前年 502 万円）、支給額は 6,338,274 円であった。

◇ 国内研修支援金選考委員会

- ・内地留学奨学金から国内研修支援金への名称変更： 会員間の認知向上と申請者数の増加を狙い、メールによる議論に基づき名称変更 4 案を理事会に提案し、協議の結果 1 案を承認。2019 年 9 月 12 日に開催された代議員総会で承認された。
- ・国内研修支援金受給者の決定： 天文月報 2019 年 7 月号で国内研修支援金受給者の募集を行った（募集時は内地留学奨学金）。1 件の応募があり、委員で内容を審査した後申請者の受給を認めた。支給額は 116,000 円である。

◇ 天体発見賞選考委員会

天文月報 2019 年 9 月号で(第 19 回)天文功労賞候補者の推薦を会員に依頼した。会員からの推薦は無かったが、選考委員会から挙げられた候補者をもとに 2020 年 1 月 5 日に開催された選考委員会において、天体発見賞 2 氏 10 件、天体発見功労賞 5 氏 1 グループ(2 氏)7 件、天文功労賞(長期部門)1 氏 1 件、天文功労賞(短期部門)1 氏 1 件の候補を選出し、2020 年 1 月 13 日に開催された代議員総会に推薦した。また、今年度より天文功労賞(長期・短期部門)の受賞理由を他の賞と同じく web 上で公開することとした。

◇ 日本天文遺産選考委員会

天文月報 2019 年 9 月号、tennet、および学会 web ページにおいて、日本天文遺産(第 2 回)の推薦を会員に依頼した。2019 年 10 月 11 日と 29 日にネットワーク会議による選考委員会を開催し、3 件の候補を選出した。それぞれについて現地調査および所有者/管理者の意向確認を行い、それら 3 件を 2020 年 1 月 13 日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 天文教育普及賞選考委員会

第二回天文教育普及賞候補の選考を行った。天文月報・tennet を通じて 9 月末締切で依頼した推薦をうけて、2019 年 10 月 8 日に名古屋市科学館にて選考委員会を開催した。zoom 参加した 1 名を含め委員 9 名全員で審議を行い、昨年度と今年度に推薦のあった 6 件から、2 件(個人 1・団体 1)を授賞対象とすることを決定、2020 年 1 月 13 日に開催された代議員総会で推薦を行った。表彰式は延期となったが賞状および副賞の楯を用意した。

◇ 天文教材委員会

インターネット版天文学辞典の内容の確認作業に引き続き委員が協力した。具体的な活動の方向性を定めるための会議を、秋期年会会期中に開催したほか、適宜メールにて議論した。特に、新規事業として計画している教材開発については次年度の具体案を検討した。

◇ ジュニアセッション実行委員会

2020 年春季年会(筑波大学)にて第 22 回ジュニアセッションを開催にむけて作業を行った。2020 年 1 月 28 日の予稿集提出締め切りを受けて、2 月 9 日にプログラム編成会議を国立天文台三鷹キャンパスで実施したほか、随時各委員、世話人がメールで連絡を取りつつ運営に関する議論・調整・準備作業を行った。タイからの発表 6 件を含め、合計 63 件の発表(口頭およびポスター)申込があった。発表者(生徒)はのべ 258 名であった。予稿集を編集し、発行した。春季年会が新型コロナウイルスの感染防止のため中止となったため、予稿提出をもって発表したと見なし、参加証と予稿集を送付する処置を執った。また、ポスターあるいは同等の発表資料をジュニアセッション HP から公開し、それに対してコメントを受ける「Web 発表」を行うこととした。

◇ 男女共同参画委員会

例年開催されている「女子中高生夏の学校」において、天文教育委員会と共同で、中高生・教諭向けに相談会などを行った。主催団体の「男女共同参画学協会連絡会」には、オブザーバー学会として引き続き在籍した。2019 年 11 月に三鷹で開催された IAU シンポ“Astronomy for Equity, Diversity and Inclusion - a roadmap to action within the framework of the IAU 100th Anniversary”に参加し、日本天文学会のジェンダー問題について議論を行った。春季年会では、キャリア支援委員会とともに「あなたのキャリアとライフイベント、どう乗り越えるか？」を企画した。

◇ 衛星設計コンテスト推進委員会

主催団体の一つとして、第 27 回衛星設計コンテストを実施した。全 53 作品(設計の部 7 件、アイデアの部 30 件、ジュニアの部 16 件)の応募があった。2019 年 11 月 9 日(土)、徳島県徳島市アスティとくしま・ときわプラザにて、一次審査を通過した 15 作品(設計の部 2 作品、アイデアの部 5 作品、ジュニアの部 8 作品)の発表と質疑応答があった。審査の結果、アイデアの部で日本天文学会賞を防衛大学校チームの「太陽極域観測衛星」に授与した。

◇ 全国同時七夕講演会実施委員会

4月26日から全国同時七夕講演会のWebページ上で講演会の登録受け付けを開始した。天文教育普及研究会の共催および日本学術会議の後援を取得した。7月7日の七夕の日や、伝統的七夕の日(本年度は8月7日)を中心とした6月～8月に29の都道府県と海外(チリ)の82会場で110件の講演会が実施された。これらのうち78会場から参加者数が報告され、その総計は8548人だった。

◇ キャリア支援委員会

これまでのキャリア支援は、年会開催時の相談コーナー設置による個別対応が主であった。このメリットは大きいものの、対応できる数に限界があることから、今年度は講演と参加者との対話で構成する会として「天文学者のサバイバル術」を秋季年会時に開催した。女性大学院生から委員会に寄せられた意見がきっかけとなり、男女共同参画委員会と連携し、「あなたのキャリアとライフイベント、どう乗り越えるか？」を春季年会において企画した。また、2017年から運用を開始したウェブサイト「天文学と社会を繋ぐ職種の人材公募情報」でも引き続き天文学と社会をつなげる職種の公募情報を収集し、47件の情報を発信した。

◇ コンプライアンス委員会

本年度は、会長または代議員総会からコンプライアンスに関わる事案の諮問がなかったため、本委員会は開催されなかった。

◇ インターネット天文学辞典編集委員会

「インターネット天文学辞典」(<http://astro-dic.jp/>)の更新・改良・維持運用を行っている。2020年4月10日時点での登録用語数は3119用語である。2019年6月1日に国立天文台三鷹にて編集会議を開催した。編集委員は主にメールにて連絡を取り合い、日常的に改訂・更新作業を分業している。また、協力者に項目の内容や図表について全チェックをお願いし、その結果を反映する作業を継続している。この1年間での内容更新数は727回である。一方、制作委員による会議を毎月1回行い、アクセス解析やコンテンツの改良等を行ってきた。例えば、英単語からの検索機能や学習レベルボタンのリンク機能などを追加し、表示を見やすく改良した。利用者数は高等学校や大学での利用を中心に年々増加傾向にある。小・中学校推奨レベルの用語へのアクセスも増えている。

V. 各賞の授与(定款第2章第5条7項に該当の事業)

2019年度日本天文学会各賞は、2020年1月13日に開催された代議員総会で以下のように決定した。なお2020年春季年会中止にともない、日本天文遺産の発表は2019年度には行わないこととしたため、以下に掲載されていない。

◇ 日本天文遺産

(発表は2020年度内に行う)

◇ 天文教育普及賞(1氏、1団体)

・藤井 旭(ふじい あきら)氏

天文台創設・著作・天文行事主導等、多岐にわたる天文学の教育普及

・学校法人 駿台学園 駿台学園中学校・高等学校(東京都北区王子)

駿台天文講座を中心とした長期にわたる天文学の教育普及

- ◇ 林 忠四郎賞 (1氏)
 - 犬塚修一郎 (いぬつか しゅういちろう) 氏
 - 名古屋大学大学院理学研究科 素粒子宇宙物理学専攻・教授
 - 研究の表題「分子雲の形成から原始星、原始惑星系円盤の形成に至るまでの 星形成過程に対する理論的研究」

- ◇ 欧文研究報告論文賞 (2編)
 - ・論文題目: Kilonova from post-merger ejecta as an optical and near-Infrared counterpart of GW170817
 - 著者: Masaomi TANAKA et al.
 - 出版年等: Vol. 69, No. 6, article id.102, December 2017
 - ・論文題目: Three-dimensional distribution of the ISM in the Milky Way galaxy. III. The total neutral gas disk
 - 著者: Hiroyuki NAKANISHI and Yoshiaki SOFUE
 - 出版年等: Vol. 68, No. 1, article id. 5, February 2016

- ◇ 研究奨励賞 (3氏)
 - ・秋山 和徳 (あきやま かずのり) 氏
 - アメリカ国立電波天文台 ジャンスキーフェロー
 - 研究の表題「Event Horizon Telescope による M87 の超巨大ブラックホールシャドウ撮像における スパースモデリングを用いた画像化」
 - ・榎山 和己 (かしやま かずみ) 氏
 - 東京大学 大学院理学系研究科 附属ビッグバン宇宙国際研究センター助教
 - 研究の表題「コンパクト星形成に伴う Fast Radio Bursts と突発天体の理論的研究」
 - ・平野 信吾 (ひらの しんご) 氏
 - 九州大学理学研究院地球惑星科学部門・日本学術振興会特別研究員
 - 研究の表題「大規模数値シミュレーションによる宇宙初期の星およびブラックホール形成過程の研究」

- ◇ 天体発見賞 (2氏、10件)
 - ・板垣 公一 (いたがき こういち) 氏 9件
 - 超新星 2019np の発見、超新星 2019uo の発見、超新星 2019yc の発見、超新星 2019fya の発見、新星 V1707 Sco の発見、超新星 2019qyk の発見、超新星 2019vju の発見、超新星 2019vsq の発見、超新星 2019yvq の発見
 - ・藤川 繁久 (ふじかわ しげひさ) 氏 1件
 - 新星 V2860 Ori の発見

- ◇ 天体発見功労賞 (5氏、1グループ(2氏)、7件)
 - ・小嶋 正 (こじま ただし) 氏 1件
 - 新星 V1707 Sco の独立発見
 - ・西村 栄男 (にしむら ひでお) 氏 2件
 - 新星 V1707 Sco の独立発見、新星 V659 Sct の独立発見
 - ・山本 稔 (やまもと みのる) 氏 1件
 - 新星 V1707 Sco の独立発見

- ・中村 祐二 (なかむら ゆうじ) 氏 1 件
新星 V1707 Sco の独立発見
- ・西山 浩一 (にしやま こういち) 氏、椋島 富士夫 (かばしま ふじお) 氏 1 件
新星 V659 Sct の独立発見
- ・金子 静夫 (かねこ しずお) 氏 1 件
新星 V659 Sct の独立発見

◇ 天文功労賞

長期的な業績 (1 氏、1 件)

- ・広沢 憲治 (ひろさわ けんじ) 氏
「50 年にわたる変光星の観測及び観測支援活動」

短期的な業績 (1 氏、1 件)

- ・早水 勉 (はやみず つとむ) 氏
「活動的小惑星ファエトンによる掩蔽観測キャンペーンの主導」

VI. 助成金(定款第 2 章第 5 条 5、7、9 項に該当の事業)

◇ 早川幸男基金：

若手天文研究者の海外での研究活動のための渡航・滞在費の補助として早川幸男基金選考委員会の選定に従い総額約 634 万円の援助を行なった。(応募 64 件、採択 25 件 (うち 1 件辞退)、採択率 39%)

◇ 学術交流費 (学生の年会参加旅費補助)：

賛助会員会費をもとに、大学院生などが秋季年会 (熊本大学) に参加して研究発表をするための一部補助を行った。(発表者：28 名、総額 59 万円)

◇ 内地留学奨学金：

応募者 1 名から 1 名の奨学生 (11 万 6 千円の支給) を決定した。

(注：内地留学奨学金は 2019 年 9 月から国内研修支援金に名称変更されている。)

VII. 後援事業等(定款第 2 章第 5 条 8 項に該当の事業)

国際・国内シンポジウムなどの共催 3 件、後援 15 件、協賛 10 件を決定した。

承諾日	実施月		事業名	宛先 (代表者)
2019/4/11	2019/6	後援	青少年のための科学の祭典2019	日本科学技術振興財団
2019/4/16	2019/7	後援	第9回高校生天文活動発表会	高校生天文活動発表会実行委員会
2019/5/8	2019/7	後援	学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2019	特定非営利活動法人 natural science
2019/5/9	2019/7	後援	第47回可視化情報シンポジウム	一般社団法人 可視化情報学会
2019/5/13	2019/9	協賛	第37回レーザセンシングシンポジウム	レーザセンシング学会
2019/5/15	2019/11	共催	第63回宇宙科学技術連合会講演会	日本航空宇宙学会
2019/6/3	2019/9	共催	学術フォーラム「いま問われる物理教育改革-より効果的な理工学教育を目指して」	日本学術会議

2019/6/17	2019/10	協賛	セミナー「未来をひらく 科学と倫理」	日本科学協会
2019/6/17	2019/7	後援	第17回高校生科学チャレンジ	朝日新聞
2019/6/19	2019/9	協賛	八重山高原星物語2019	薩摩川内市役所
2019/7/2	2019/11	協賛	京都賞ワークショップ	稲盛財団
2019/7/12	2020/6	協賛	12 th International Conference on the Optics-photonics Design & Fabrication	日本光学会
2019/8/6	2019/9	協賛	2019年URSI日本電波科学会議	電子情報通信学会
2019/8/7	2019/9	後援	三鷹の森科学文化祭「みたか太陽系ウォーク」	特定非営利活動法人 三鷹ネットワーク大学推進機構
2019/8/17	2019/8	後援	第33回 2019年天文教育普及研究会	天文教育普及会
2019/8/19	2019/10	後援	令和元年「三鷹・星と宇宙の日」	自然科学研究機構国立天文台
2019/8/20	2019/9	後援	第1回量子線イメージング研究会	量子線イメージング研究会実行委員会
2019/9/17	2020/5	後援	日本地球惑星科学連合2020年大会	公益社団法人 日本地球惑星科学連合
2019/9/25	2019/11	後援	第20回こどものためのジオ・カーニバル	こどものためのジオ・カーニバル企画委員会
2019/10/23	2019/11	後援	「宇宙・空・海-フロンティア 人工物分科会シンポジウム」	日本学術会議
2019/11/26	2020/1	協賛	「第46回冬季講習会 超スマート光学のためのAI技術」	日本光学会
2020/1/14	2020/6	協賛	第45回光学シンポジウム	日本光学会
2020/1/14	2020/8	後援	科学教育研究協議会第68回全国研究大会	科学教育研究協議会
2020/1/17	2020/7	共催	高校生天体ネットワーク全国フォーラム2020	高校生天体ネットワーク
2020/1/30	2020/3	後援	Astropol 2020	IAUシンポジウム360実行委員会
2020/2/10	2020/3	協賛	2020年度精密工学会春季大会公開シンポジウム	精密工学会
2020/2/26	2020/9	協賛	日本流体力学会 年会2020	日本流体力学会
2020/3/26	2020/7	後援	第10回高校生天文活動発表会	高校生天文活動発表会実行委員会

VIII. 外部の各賞・研究助成等への推薦(定款第2章第5条7項に該当の事業)

外部の各種の賞および研究助成に対し、天文月報・学会ホームページで候補者を広く募り、会長・副会長が中心となって選考した上で学会としての正式の推薦を行った。(島津奨励賞2件、東レ科学技術研究助成2件、山田科学振興財団研究援助3件、日本学術振興会賞1件)

IX. 事務所活動(定款第1章第2条)

日本天文学会事務所では、事務長を含む常勤職員3名と5名の非常勤職員により、本会の各事業に関する業務活動を行った。

会 員 数

2020年3月31日現在の会員数は以下の通りである。

	正会員(内学生)	準会員	団体会員	賛助会員	合 計
2019年3月31日	2,134(498)	1,127	38	40	3,339
入 会	214(197)	66	2	2	284
退会・除籍等 (うち 除籍)	△182(119) (△27(0))	△94 (△18)	△1 (0)	0 (0)	△277 (△45)
移籍(増)	11(4)	5	-	-	16
移籍(減)	△5(0)	△11	-	-	△16
正会員へ(学生減)	△(63)				
2020年3月31日	2,172(517)	1,093	39	42	3,346

(注1：除籍とは会費未納による資格喪失を指す)

(注2：移籍とは正会員、準会員との間の移動のことを指す)

(文責：庶務理事 鈴木建)